

日本M&Aセンター

中小の事業承継でKMCが業務提携

技術目線の診断、M&Aに生かす

中小企業のM&Aで国内トップの実績を持つ日本M&Aセンター(分林保弘社長)は11月6日、製造業の技術コンサル等を行うKMC(佐藤声喜社長)と業務提携・サービス協力をを行うと発表した。協力内容は、後継者問題等を抱える中堅・中小企業オーナーと、自社の成長・発展を目的にM&Aを検討する企業とを引き合わせる成長戦略・事業承継支援など。

国内製造業では後継

者不在、従業員の高齢化、技術革新への対応、人材の獲得困難などを理由に、M&Aによって他社と連携する企業が増えている。日本M&Aセンターでは、「KMCは自動車・精密の大手から金型・部品製造の中企業まで豊富な技術コンサル実績を持ち、IoT・M2Mシステム導入支援にも力を入れている。KMCによる技術的見地からの企業価値診断等により高付加価値のサービス提供を目指す」とする。

また、KMCの佐藤社長は(一社)日本金型工業会の技術委員も務めており、金型の事業承継も危惧する。工業統計によると17年の国内の金型生産高は約1兆5223億円でピーク時(91年、約2兆円)の3分の2に減少。事業所数は7300社と44%も減った。「これ以上、事業承継で事業所が減り生産規模が落ちれば世界トップレベルの技術を誇る金型産業のみならず、関連インフラ産業(鋼材、熱処理、表面処理)も衰退し、日本のモノづくりの力が弱体化する」(佐藤社長)。

日本M&Aセンターでは「今後、KMCとの提携を通じてサービスを向上させ、経営支援を必要とする国内中堅・中小企業の存続と発展に貢献したい」という。

日本M&Aセンターでは「今後、KMCとの提携を通じてサービスを向上させ、経営支援を必要とする国内中堅・中小企業の存続と発展に貢献したい」という。